

学びのストーリー（単元の流れ）

1次

総合のテーマ・ゴールを決めたい！

◎総合の学び方を学ぶ
 

- このテーマにすれば、コミュニケーション力が身に付くよ。
- このテーマの方が、長い時間をかけて探究できるんじゃない？
- 押し花やドライフラワーを作って販売したい。利益を出して、誰かのために役立てたい！

ゴールに向けて、何をどんな順番でしたらいいのかな？

◎自分たちの力で探究の道筋をつける
 

- 販売するだけでなく、自分たちの活動の発表もいれたいな。
- 人との関わりを大切にしたいから、だれかに教わりたいな。
- まずは作り方を調べてみようよ。

2次

押し花・ドライフラワーの作り方を調べたい！

◎行動を起こすために必要な情報を収集する
 

- 押し花とドライフラワーの作り方を手分けして調べよう！
- 動画を探せば出てくるかもしれない。
- 調べられたから、次は実際に作ってみたいな。

実際に作ってみたい！

◎試行錯誤しながら取り組む
 

- まずは自分たちで花を持ち寄って作ってみよう。
- 自分たちで育てた花でもドライフラワーを作ってみたいな。
- やって分かったけどドライフラワーに適した花がありそう。
- とりあえずできたけど、売るならもっとうまく作りたいな。

どうやったらうまくできるか、教わりたい！

◎「よりよい作品を作りたい」という思いを表出する
 

- うちのお母さんが押し花得意だから聞いてみようかな。
- 学区に花屋さんがあるから、教えに来てもらおうよ。
- 上手な作り方が分かったから、色々作ってみたいな。

たくさんの種類の押し花・ドライフラワーを作りたい！

◎相手意識をもって、作品作りに取り組む
 

- 四葉のクローバーを押し花にしたらみんな喜びそうじゃない？
- 自分たちで育てた花で作ったらもっと気持ちが込もるよ。
- ラミネートして、本に挟むしおりを作ったら使ってくれるよ！
- いい作品ができたから、たくさんの人に買ってほしいな。

作った押し花・ドライフラワーの販売方法を決めたい！

◎よりよい販売の仕方を考える
 

- 休みの日にフリーマーケットで出品しようよ。
- でもそれだと、行ける人だけになっちゃうからいやだな。
- 校長先生にお願いして校内で販売させてもらおうよ。

3次

お客さんを呼んで作ったものを販売したり、作り方を教えたり、自分たちの取り組みを発表したりしたい！

◎個別最適な学び（思いを実現するために手段を選択して取り組む）
 

- お客さんを呼べるようポスターを作るね！
- 興味をもってもらえるよう、作り方を動画にして見せようよ。
- 僕はこれまでの取り組みをプレゼンにまとめるね！
- たくさん売れてうれしいね。出た利益を何に使おうか？

販売して得た利益を、誰かのために使いたい！

◎誰かのために役立てる喜びを味わう
 

- 学校が花でいっぱいになるように、学校に寄付しようよ！
- 自然保護の団体に寄付しよう。　・花屋さんにお礼がしたい。

1年間の総合の学びを通して、自分たちにはどんな力がついたのかな？

◎探究的な学びを通して身に付けた力を実感する
 

- とりあえず試してみる勇氣、改善する力が付いたよね。
- 自分たちの思いを実現するために頑張る力がついたよ。

授業デザイン

響き合う

話し合いが表面的にならないよう、自分が何を学びたいのか、その活動を通して目指したいゴールは何なのか、一人ひとりに思いを確実に持たせた上で話し合いをさせる。

高め合う

自分たちが目指すゴールに近付くためには何をどんな順番でしたらよいか、グループや全体で話し合い、自分たちの力で探究の道筋をつける。そして、その後の見通しを持って取り組めるようにする。

自己調整

自分が調べたい内容について、それぞれが学習ツールを決め、情報収集していけるようにする。

手立てや概念

子どもの調べた内容を整理して板書し、上手に作品を作る方法を分析させる。

手立てや概念

総合学習においては特に、「トライ＆エラー」が大切であることを伝え、取り組んだ結果から改善点を見いだす姿勢を育てていく。

手立てや概念

子どもたちの思いを実現できるように、事前に教師がゲストティーチャーの内諾を得た上で子どもたちに交渉させ、自分たちの力で約束を得ることができた喜びを味わわせる。

響き合う

相手意識を持つ大切さを繰り返し伝えることで、話し合いの中から「～すればお客さんが喜ぶ」「こういう作品を作ったら〇年生が使ってくれる」などの言葉を引き出す。そしてその後の作品作りへの強い思いに繋げる。

手立てや概念

販売して利益を出す視点、自分たちの取り組みを多くの人に知ってもらう視点などから、よりよい販売の仕方について話し合うようにする。

自己調整

自分が取り組みたい内容について、それぞれが学習ツールを決め、追究していけるようにする。

手立てや概念

複線的な学びを大切にしつつも、全体での共有も大切にし、お互いにアドバイスし合えるようにする。

高め合う

自分たちが苦労して得た利益の最も有効な使い道について、理由を述べながら真剣に話し合い、納得解を自分たちで醸成できるようにする。

自己調整

1年間の学びを振り返り、自分にはどのような力が付いたのかをメタ認知するとともに、中学校でも探究的に学べるよう動機づけする。

評価規準／評価方法

【思考・判断・表現】

- 総合のゴールに向けた道筋を自分なりに考え、伝えることができる。

【知識・技能】

- 押し花・ドライフラワーづくりのために必要な情報を自分なりの方法で調べている。

【思考・判断・表現】

- 課題解決のために集めた複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら分析し、実際に取り組む内容を具体的に考えている。

【学びに向かう力・人間性】

- 得た知識や技能を生かしながら、友達と協働して押し花やドライフラワー作りの問題を改善しようとしている。

【学びに向かう力・人間性】

- 伝える（販売する）相手や目的を意識して、よりよい発表（お店）にするために粘り強く取り組もうとしている。

【思考・判断・表現】

- 伝える（販売する）相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、ポスター・プレゼンテーション・動画等を通して表現している。

【知識・技能】

- 物を作製したり販売したりすることは簡単ではないことを体験的に理解するとともに、その上で自分たちの思いを実現できたのは探究的に学習してきた成果であることに気付いている。

【学びに向かう力・人間性】

- 探究の過程を振り返り、総合の学びのよさを再認識し、今後に生かそうとしている。

願う子どもの姿

- 自分たちで決めた総合のゴールにたどり着くために何をどの順番で行っていくべきか、自分たちで道筋を考えられる姿。
- 活動への強い思いを表出し、話型を越えた自分の言葉での響き合いをすることで、よりよい活動へと高めていける姿。
- 自分の思いを実現するために最適な手段は何かを自ら判断し、ツールの一つとしてICTを効果的に活用できる姿。
- 探究のサイクルを繰り返しながら協働的に学んだことで「自分たちにどんな力が身に付いたのか」を心から実感できる姿。